

第1回 サイバーセキュリティ検証基盤構築に向けた有識者会議

日時・場所 令和元年9月2日(月) 15:00-17:00 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)

出席者

- [委員] 熱海委員、岩井委員、高倉委員、齊藤委員、佐藤委員、下村委員、寺原委員、名和委員、政本委員
[事務局] IPA セキュリティセンター 瓜生センター長、小川グループリーダー、増田主任研究員
[オブザーバー] 経済産業省 商務情報政策局 サイバーセキュリティ課 奥家課長、鴨田企画官、尾崎課長補佐、西野課長補佐、野村係長、IPA セキュリティセンター 桑名副部長

議事概要

本会議には座長を置かず、本会議は非公開とし、議事要旨のみ公開することとなった。第一回の会議では、IPA より本会議での検討スコープと、今後の検討事項案、検討スケジュールについて説明。その後、重要分野の考え方、ベンチャーの支援策などについて自由討議を行った。委員からの意見は以下の通り。

【重要分野について】

- 重要分野を一番に決めるというのは不可能と思う。我が国の中でどんなシーズ、アイデアがあるかを見た中で、我が国のユーザー、世界で見ても重要だと判断で選んでいくもので、これを先に考えると決まらない。
- AV とか IPS とかのレガシー分野をやっても仕方ない。IoT のようなカテゴリーの決まっていないものを選ぶか？
- CTI(Cyber Threat Intelligence)も候補になるのでは？ AI ベース CTI とかも候補かも。
- 製品評価ではなく、いかにシーズを見つけてそれを支援していくかを議論すべき。
- 日本経済再生本部の未来投資戦略は3年先の工程表まで出ているので、国家戦略としての重要分野と考えられる。
- グローバルで商売している海外製品はレッドオーシャンで勝負している。日本独自でブルーオーシャンなところもあると思うので、海外製品とぶつかってしまうところと、日本独自のものを分けて議論すべき。
- サイバーキルチェーンの後半、特にOT(データダイオードとかラテラルムーブ検知等)に日本独自のブルーオーシャンがある。
- 数年後に海外勢が出てくるところ予測してブルーオーシャンの議論をしないと、気が付くとレッドオーシャンになってしまう。
- 予防策のところはレッドオーシャンなので、盗まれても被害がなかったというようなコンセプトのテクノロジーのところでもいいものがあれば育ててみてよい。

【実証環境について】

- 昔は Signature ベースでラボで評価できたが、今は実(本番)環境でないと製品・技術評価ができない。NII では実環境を公開している。

【グローバル対応】

- 製造業が海外進出した際にサプライヤーが海外についていったのと同じように、サイバーセキュリティのベンダーもグローバル対応でなければならないと思う。
- グローバルで合意形成を取るのに、日本ローカルの製品の話をして通じない。日本製品もグローバル化してもらえないと、使いたくても使えない。
- 国策・国益に直結するところは、ある意味逆に国として抱えなければいけないところなので、無理にグローバルという必要はないのではないか。事業会社とプラスアルファで国としてどうしたいのか合わせて考えたい。

【ベンチャーへの支援】

- ユーザーはベンチャーの製品を中々使ってくれない。こういった状況を乗り越えられる手立てを有識者会議で議論してほしい。
- 補助金だと1年で消えてしまうので、政府の支援とVCなどの民間の投資を組み合わせたエコシステムをつくらないとまずい
- スタートアップ企業をどう押し上げていくのか、その方法(アメ、支援等)をどう考えていくのかを議論すべき。
- 外資系ベンダーは導入実績としてペンタゴンやNSA があると言う。セキュリティベンダはデータ提供を受けて無償で製品を提供し、それが導入実績となる。製品を育てることを目的としており、そういうのが日本にもないといけない。
- 中小機構の東小金井にベンチャーインキュベーション施設(セキュリティはない)があり、2000人の経営コンサルと安価な賃貸スペース提供がある。こういったことも考慮必要。

以上